

# 「森と水と命の惑星」国際会議

## ～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

### 芭蕉の俳句とセザンヌの絵はつながるか？(6)

(気韻生動)

セザンヌの1880年代半ばから1890年代半ばまでの静物画と風景画とはほぼ同時代のゴッホの絵にはそれぞれの気韻を感じるものが出来ます。これらのセザンヌの生物画、風景画、ゴッホの生物画、風景画それぞれが流れていおり、それがじわっと胸に伝わっています。

ゴッホの(馬鈴薯を食う人々)、(ひまわり)、(糸杉のある麦畑)、(オーベールの教会)、自然の沈黙と人間の重い沈黙が響き合っているように感じられる。(セザンヌのカルタをする人々)、(りんごとオレンジ)、(サント・ウイクトワール山)、自然と人間との沈黙の軽い流れが感じられる。ゴッホとセザンヌの間に

は、重い、軽いという微妙なニュアンスの違いがあるのが感じられる。

芭蕉は自然と人間との関係に、静、動、騒、閑、軽、などいろいろな微妙な心の境地を詠み、風雅、軽ろみ、などいろいろなことばで呼んでいた。西欧の芸術も日本の芸術もそれぞれ気韻生動を感じて、表現しているものと思われ。

(志と命のつながり)

金野 孝子  
ろうそくの炎に揺らぐ  
孫の笑顔 高校合格発  
表の夜

被災船の修理忙しき溶  
接工顔黒金色に光りけ  
り  
返歌  
打ち込めし努力は顔に  
漲ぎたり 孫の合格船  
の修理工

田中 君代  
博物館・体育館と撤去

さる 陸前高田に山河  
残り

被災地にコタツ・スト  
ーブ・米に味噌 雪空  
はかりて運び来し人  
返歌

根こそぎに町は流され  
大津波 米味噌運ぶ助  
け人ある

休石庄太郎  
津波後の二年経ちたる  
わが庭に 千余四百年  
の椿つぼみぬ

支援米その紙袋ふと見  
れば「頑張って下さ  
い」と小五の真緒ちゃ  
ん

返歌  
吾庭の椿は幾歳とき重  
ね子孫に継がれし心の  
きつな

金野かめ子  
若き頃の祖父の植えた  
る杉丸太を 復興の助  
けにと子等と願ひぬ

復興の成りたる浜を觀  
るまでほど 病床の夫  
はいつも語りき  
返歌

復興の心は静かに燃え  
にける 祖父の植えた  
る杉に託して

(志と命のつながり)の歌は、中国唐代の大詩人である杜甫の詩「く」に破れて山河あり、城春にして草木深

し」に響き合うものがある。杜甫の詩「春望」への返歌を詠みました。

返歌  
津波襲い町流されて瓦礫原 春は巡りて復興の響き

まさに、志は歴史につながれ、命は自然につながれております。千四百年の椿もつぼみました。

(東海新報の記事から)

2月21日の第1面には「水産加工団地へ前進 地域振興(株)工業地鎮祭 陸前高田」が掲載されている。陸前高田に水産食品加工グループを形成し、集積の強みを生かした事業を展開する方針であると報じられている。

第8面には「定点観測 気仙の記録〜未来へ向かう道すがら〜避難所周辺に仮設店舗 陸前高田町」が掲載されている。気仙の復興への(志と命のつながり)は一步一步、根を張り出している。まさに、気仙では「津波襲い町流されて瓦礫原 春は巡りて復興の響き」の歌が杜甫の詩「春望」と響き合っている。